

特 集

いま改めて 妊娠高血圧症候群を考える —診療指針改訂のポイントから—

企画者のことば

中島彰俊*

妊娠高血圧症候群は、2005年『妊娠中毒症から妊娠高血圧症候群へ—過去から未来へ—』によって pregnancy induced hypertension (PIH) として定義・分類され、2009年には『妊娠高血圧症候群 (PIH) 管理ガイドライン』として治療指針が示されてきました。その後、内科医の先生方にもご参画いただき『妊娠高血圧症候群の診療指針 2015 Best Practice Guide』が刊行され、家庭血圧の重要性についても記載されるようになりました。そして、妊産婦の高齢化に伴い高血圧合併妊娠の頻度も上昇し、妊娠前からの高血圧症の存在が無視できず、諸外国では定

義・分類が変更されました。海外における表記も toxemia of pregnancy は PIH に、そして現在 hypertensive disorders of pregnancy (HDP) となり、わが国でもそれに対応するため2018年に定義・臨床分類・診断基準を全面改定し、診療指針も改訂することにしました。

そこで本書では、診療指針 2021 に携わった先生方にお願ひし、診療指針 2015 との変更点や変わりのない重要な管理ポイントについて解説していただくこととしました。新しい診療指針と共に本書を見ることで、HDP 管理についての理解が深まることを期待します。

* Akitoshi Nakashima 富山大学医学薬学研究部産科婦人科教室(教授)